

# 2026 年 4 月リリース「ChatGPT Images 2.0」の総合評価と知財実務への多角的インパクト分析

Gemini 3.1 pro

## 1. 序論：人工知能による視覚言語の獲得と知的財産実務のパラダイムシフト

2026 年 4 月 21 日、OpenAI によって「ChatGPT Images 2.0（基盤モデル：gpt-image-2）」が公式にリリースされた<sup>1</sup>。本モデルの登場は、単なる画像生成技術のグラフィック品質向上にとどまらず、人工知能が「視覚的言語（Visual Language）」を論理的に構築し、複雑な情報を正確に伝達する段階へと到達したことを意味する<sup>3</sup>。先行モデルや旧来の拡散モデル（Diffusion Model）が、学習データに基づくプロンプトからの「確率的な視覚的近似」や「装飾（Decoration）」の生成にとどまっていたのに対し、Images 2.0 は OpenAI の最新の「O シリーズ」推論（Reasoning）機能をネイティブに統合し、複雑な空間認識、多言語テキストの正確な描画、そして文脈の一貫性を保持する能力を完全に獲得した<sup>4</sup>。これにより、出力される画像はユーザーの意図に対する精緻な「回答（Answers）」として機能するようになっている<sup>5</sup>。

知的財産（IP）実務の観点から見ると、この技術的進化は極めて重大な二面性を持っている。第一の側面は、商標の類似性調査、意匠のクリアランス、特許明細書の図面作成、あるいはグローバルな商標権侵害監視といった、知財プロフェッショナルのワークフローを根本から効率化し、高度化するかつてない強力なツールとなる点である<sup>8</sup>。第二の側面は、AI 生成物が実用に耐えうる高い解像度（最大 4K 解像度対応）と構造的精度を持ったことで、著作権侵害、営業秘密の漏洩、ディープフェイクやパブリシティ権の侵害といった法的リスクが、極めて現実的かつ複雑な形で表面化している点である<sup>10</sup>。

本稿では、ChatGPT Images 2.0 の技術的評価を基点とし、それが 2026 年現在の知財実務や法的枠組み（著作権法、商標法、意匠法等）に与えるインパクトを深掘りする。各国の最新の司法判断、米ホワイトハウスの政策枠組み、日本の特許庁（JPO）や文化庁の最新動向を交えながら、企業知財部門や法律事務所が構築すべき次世代のガバナンス体制について、網羅的かつ詳細に考察を展開する。

## 2. ChatGPT Images 2.0 の技術的進化とコア・ケイパビリティの深層

知財実務への影響を正確に評価するためには、まず ChatGPT Images 2.0 がもたらした技術的ブレイクスルーの性質を解像度高く理解する必要がある。本モデルは、画像生成と推論能力をコアレベルで融合させており、競合する Google の Nano Banana 2 モデルなどを空間認識やテキスト処理の面で凌駕していると評価されている<sup>3</sup>。

## 2.1. ネイティブリゾーニング（推論）の統合と文脈理解の高度化

最も顕著な進化は「Thinking（思考）」モードの導入である<sup>15</sup>。ChatGPT Images 2.0 は、Plus、Pro、Business、Enterprise プランのユーザー向けに提供されるこのモードにおいて、プロンプトを受け取った後、即座にピクセルを生成するプロセスには移行しない<sup>8</sup>。代わりに、内部的にプロンプトを論理的に分析し、必要に応じてリアルタイムのウェブ検索を実行して最新情報を補完し、レイアウトや構図の「計画」を立ててから描画プロセスに移行する<sup>3</sup>。

この推論プロセスの統合により、生成物は単なる画像の枠を超え、情報の構造化された視覚的回答となる<sup>5</sup>。例えば、複雑な科学的メカニズムの解説図、UI（ユーザーインターフェース）のモックアップ、あるいは古代帝国の詳細な凡例付きマップなどを生成する際、システムは要素間の論理的な関係性を理解した上でオブジェクトを正確に配置する<sup>3</sup>。これにより、特許出願の際の概念説明図や、意匠登録のための製品プロトタイプ画像の生成など、極めて高度な正確性が求められる実務において、修正なしで利用可能なレベルの素材を提供できるようになった<sup>1</sup>。また、Codex AI コーディングアシスタントとの統合により、開発者やエンジニアがコードと視覚的デザインをシームレスに行き来するワークフローも実現している<sup>1</sup>。

## 2.2. 多言語テキストの高精度描画と構造化データの可視化

従来の AI 画像生成モデル（DALL-E 3 や初期の拡散モデル）における最大の弱点であり、知財実務への導入を阻む障壁となっていたのは、画像内のテキスト描画（Text Rendering）の不正確さであった。文字が歪む、スペルが破綻する（例：「enchuita」や「margartas」のような無意味な文字列の生成）、文字間隔が不自然になるという問題が常態化していたが、gpt-image-2 モデルはこの課題を劇的に改善している<sup>5</sup>。

特に特筆すべきは、言語の壁を越えた「ポリグロット（多言語対応）モデル」としての性能向上である。英語（ラテンアルファベット）のみならず、日本語、韓国語、中国語、ヒンディー語、ベンガル語などの非ラテン言語においても、約 99% の文字レベルの正確性を達成している<sup>6</sup>。OpenAI が提供したサンプルでは、韓国語のハングルを用いた複雑な「水循環のインフォグラフィック」や、「Open Scifi」という架空の雑誌の表紙において、ヘッドラインからバーコード上部の細かい日付に至るまで、極めて高精度にレンダリングされていることが確認されている<sup>6</sup>。

知財領域においては、この多言語テキスト描画能力が決定的な役割を果たす。各国の市場に合わせた商標出願用のローカライズされたロゴデザイン生成、パッケージ意匠の検討、あるいは証拠資料としての多言語図解説明書の作成などが、外部のグラフィックデザイナーを介さずに、プロンプトの指示のみで完結するようになるためである<sup>6</sup>。

## GPT-Imageモデル間の性能および機能比較（1.5 対 2.0）

機能・指標	GPT-Image-1.5	✓ GPT-Image-2.0
テキスト描画精度	1~5語のタイトル向け	約99%の文字レベルの正確性
生成スピード	8~18秒	約3秒（3~5倍高速）
最大解像度	1536×1024	2048×2048 / 4096×4096（最大2K）
アスペクト比	1:1, 4:3, 3:4のみ	16:9追加、複数のアスペクト比対応
多言語対応	欧米言語中心	非ラテン言語に拡張（日本語・韓国語・中国語・ヒンディー語・ベンガル語などに対応）
リアリズム	「AI特有の黄色いフィルター」あり	実物と見紛うレベル
推論機能・新機能	単発生成のみ	単一プロンプトから最大8枚の連続生成（キャラクター等の連続性保持）、Thinking/Instant版

ChatGPT Images 2.0は、テキスト描画の正確性と生成速度において旧モデルから飛躍的な向上を見せており、特に非ラテン言語のネイティブサポートが実務利用のハードルを大きく引き下げている。

Data sources: [Apiji](#), [VentureBeat](#), [9to5Mac](#)

さらに、解像度やフォーマットの面でも大幅な拡張が行われた。gpt-image-2 モデルは、最大2048×2048、あるいはベータ版として4096×4096（4K）の超高解像度出力をサポートしている<sup>2</sup>。また、アスペクト比についても、極端に横長な3:1から、縦長な1:3までのフォーマットを柔軟に指定できるため、ソーシャルメディアのバナー、プレゼンテーションスライド、モバ

イル画面の UI に至るまで、外部のトリミングツールを必要とせずに直接出力が可能である<sup>8</sup>。

### 2.3. プロンプト追従性と連続性・一貫性の担保

ビジネスユースにおけるもう一つの重要なブレイクスルーは、単一のプロンプトから最大 8 枚の首尾一貫した画像を一括生成できるバッチ機能の搭載である<sup>6</sup>。これにより、キャラクター、オブジェクト、あるいは特定のブランドの「視覚的 DNA (Visual DNA)」を保ったまま、連続するストーリーボード、漫画のパネル、絵本、または同一製品の別角度からのモックアップを作成することが容易になった<sup>6</sup>。

特許実務において、ある機械装置の動作プロセスや、ソフトウェアの画面遷移を複数のステップに分けて図示する必要がある場合、この「一貫性の担保」機能は極めて有用である。従来は手作業で各ステップの画像を個別に生成し、それらを不自然にならないように手動で合成・調整する「煩雑な (cumbersome)」ワークフローが必要であった<sup>6</sup>。しかし、Images 2.0 の推論エンジンは、空間的な関係性を維持したまま一連の動作図を生成できるため、意匠権や特許権の図面作成の初期段階にかかる時間を大幅に短縮する<sup>6</sup>。

### 2.4. API を通じたエンタープライズ統合とコストパフォーマンス

開発者や企業向けには、Image API および Responses API を通じて、gpt-image-2 モデルへの直接アクセスが提供されている<sup>8</sup>。これにより、企業は自社の社内システムやクライアント向けのアプリケーションに、高度な画像生成や画像編集の自動化ワークフローを組み込むことができる<sup>8</sup>。

特筆すべきはそのコスト競争力である。1024×1024 の基本解像度における API の価格設定は、低品質設定 (low) で 1 枚あたり 0.006 ドル、中品質設定 (medium) で 0.053 ドル、高品質設定 (high) で 0.211 ドルとなっており、前世代の GPT-Image-1.5 のすべての品質ティアを下回る価格で提供されている<sup>12</sup>。この圧倒的なコストパフォーマンスにより、法務文書の自動図解化や、数万件に及ぶ商標類似性評価における画像解析など、スケーラビリティが求められる知財タスクへの AI 導入が一気に加速している。

サービスティア	対象ユーザー	提供機能 / アクセス権限
Instant (Base)	全 ChatGPT ユーザー (無料版含む)	基本的な高画質画像生成、多言語テキスト描画 (推論機能なし) <sup>15</sup>
Thinking	Plus, Pro, Business プラン	事前推論、ウェブ検索連携、一貫性のある複数画像 (最大 8 枚) の生成 <sup>6</sup>

Enterprise / API	法人契約、開発者	gpt-image-2 の直接利用、4K 解像度対応、データプライバシー保護（学習への非利用） <sup>6</sup>
------------------	----------	--

### 3. 知財実務（調査・権利化・監視）における劇的なワークフロー変革

ChatGPT Images 2.0 およびその基盤となる gpt-image-2 の推論能力、視覚認識能力、そして生成能力は、企業知財部や特許法律事務所の日常業務に具体的な変革をもたらしつつある。特に「調査（Search）」、「出願準備（Preparation）」、そして「権利行使・監視（Enforcement）」の各領域において、そのインパクトは絶大である。

#### 3.1. 商標クリアランス調査における限界突破と AI ハイブリッドモデル

商標の出願前に行われるクリアランス調査は、自社のブランドが他社の先行権利を侵害しないことを確認するための極めて重要なプロセスである。伝統的にこの調査は、テキストベースの検索キーワードと、審査官の主観的な判断に依存する図形分類コード（ウィーン分類等）を用いて行われてきた<sup>9</sup>。

しかし、この従来手法には決定的な死角が存在していた。視覚的には極めて類似しているロゴやマークであっても、異なる分類コードが付与されていれば検索網から漏れてしまうのである<sup>9</sup>。例えば、ある審査官が特定のスタイリッシュな幾何学図形を「全体的に三角形の図形」と分類し、別の審査官がそれを「定義不能な幾何学図形」と分類した場合、テキストベースの検索ではこれらが結びつくことはなく、見落としのリスク（推計で 30～40%に達するとされる）が常に存在していた<sup>9</sup>。この結果、高額な費用をかけてブランディングを行った後に、予期せぬ異議申立や侵害訴訟に直面するケースが後を絶たなかった<sup>9</sup>。

GPT-5.4 Vision モデルや gpt-image-2 の API を活用した AI 画像認識技術は、この課題に対する強力なソリューションを提供している<sup>9</sup>。AI はウィーン分類のコードに依存することなく、数百万件の商標画像データベースに対して、形状、色彩、デザインの構成要素、全体的なレイアウトの視覚的な類似性をピクセルレベルで瞬時に解析・比較する<sup>9</sup>。

さらに、自然言語処理（NLP）の進化により、視覚情報だけでなく、音声的・意味的な類似性分析も高度に統合されている<sup>26</sup>。例えば、NLP 技術は「Byte」と「Bite」のようにスペルは異なるが発音が同一である単語（称呼類似）を特定し、あるいは「Swift Runner（俊敏な走者）」と「Quick Strider（速く歩く者）」のように概念的なテーマが共通している商標（観念類似）をフラグ付けすることができる<sup>26</sup>。また、グローバル市場においては、言語間のニュアンスや文化的な文脈の違いを考慮した横断的な評価が可能である<sup>26</sup>。

中規模の知財法律事務所では、このような AI を導入したクリアランスツールの活用により、

調査にかかる時間を40～60%削減しつつ、従来手法で見逃されていた潜在的なコンフリクトを高精度で発見しているケースが多数報告されている<sup>9</sup>。実務においては、AIに業務を丸投げするのではなく、以下のような段階的な「ハイブリッド・ワークフロー」の構築がベストプラクティスとして定着しつつある<sup>9</sup>。

- **Tier 1: AI ノックアウト審査 (AI Knockout Screening)** AIの画像認識とテキスト解析を用いて、明らかに問題がない商標や、逆に明白なコンフリクトが存在する商標を瞬時に識別し、膨大な候補からノイズを排除する<sup>9</sup>。
- **Tier 2: AI 支援型包括調査 (AI-Assisted Comprehensive Search)** 一次審査を通過した候補に対して、AIによる視覚的類似性分析と、従来のテキスト・コードベースの検索を併用し、AIが見逃す可能性のある音声的・概念的類似性も拾い上げる<sup>9</sup>。
- **Tier 3: 人間による法的評価 (Human Analysis and Opinion)** AIがフラグを立てた潜在的なコンフリクトに対して、経験豊富な弁護士や弁理士が、法的専門知識（混同の恐れを判断する諸要素、業界の文脈、過去の権利行使の履歴など）を適用して最終的な意見書を作成する<sup>9</sup>。

# AI拡張型商標クリアランス調査の3層ワークフロー



AIによる視覚的・意味論的スクリーニングを前段に配置することで、ノイズを排除し、人間の専門家は法的文脈の分析と最終的な「混同の恐れ」の評価に集中することができる。

データソース: [LeanLaw](#)

## 3.2. 意匠・特許明細書図面およびプロトタイピングの高度化

特許や意匠の権利化業務においても、画像生成 AI は大きな価値をもたらす。特許出願の明細書作成では、発明の構成要素や実施形態を第三者や審査官に正確に伝えるための図面が必要不可欠である。ChatGPT Images 2.0 が備える「指定されたレイアウトや空間的構造の指示に対

する高い追従性」は、発明者が書いたラフスケッチやテキストベースのアイデア説明から、特許庁の要件を満たす洗練されたブロック図、フローチャート、あるいは概念的な立体図を生成するプロセスを強力に支援する<sup>5</sup>。また、推論機能により、要素間の論理的な繋がりを自己検証しながら描画するため、技術的に矛盾のある図面が生成されるリスクが低減されている<sup>5</sup>。

意匠実務においては、新製品のプロトタイピングやバリエーション展開の検討において革新が起きている。デザイナーが作成した一つのベースデザインから、材質、色彩、あるいはテクスチャ（表面の質感）を微細に変更したバリエーションを無数に生成し、出願すべき最も効果的な形態を短時間で絞り込むことができる<sup>18</sup>。また、画像間（Image-to-Image）の編集機能を活用すれば、特定のブランド要素（ロゴや特有の形状）を維持したまま、新しい意匠の可能性を探索することも可能である<sup>28</sup>。

審査当局である特許庁側も、この AI の波に無関心ではない。日本の特許庁（JPO）は、審査の質の維持・向上と迅速化を目的とし、2024 年以降、意匠公知資料となる外国の意匠公報に対して日本意匠分類を付与する作業の効率を高めるため、AI 技術を部分的に導入している<sup>29</sup>。さらに、2025 年 4 月には「生成 AI を利用して創作されたデザインの意匠法上の保護の在り方に関する調査研究」の報告書を公表しており、生成 AI がデザイン創作プロセスに不可分に組み込まれる時代の到来を前提とした、審査体制および保護基準の構築を急いでいる<sup>29</sup>。

### 3.3. 模倣品対策（アンチカウンタフェイト）とグローバル侵害監視の自動化

グローバルにビジネスを展開する企業にとって、国境や言語を越えて氾濫する模倣品の監視と排除は、膨大なコストとリソースを要する課題である。ここでも、gpt-image-2 の多言語テキスト認識と視覚パターンの理解能力が威力を発揮する。

API を介してこのモデルを監視システムに組み込むことで、EC サイト、オークションサイト、あるいはソーシャルメディア上にアップロードされた膨大な製品画像を自動的にスクレイピングし、自社の商標、意匠、あるいは著作権を無断使用していると疑われる商品を極めて高い精度で特定することが可能となる<sup>18</sup>。

高度な AI は、単なる画像の完全一致を判定するだけでなく、言語の壁や文化的なニュアンスの違いを学習している。そのため、異なる言語圏において製品の名称を微妙に変更しつつも、全体的なパッケージデザインや色彩構成（トレードドレス）を悪意を持って模倣しているようなケースも、高い確度でフラグ付けし、知財部門の担当者にアラートを発することができる<sup>26</sup>。これにより、権利行使の対象を迅速に特定し、プラットフォームに対するテイクダウン要求（削除要請）を効率的に行う体制が構築される。

## 4. 2026 年最新の法的枠組みと著作権・パブリシティ権を巡るリスク

ChatGPT Images 2.0 が極めて精緻で、実務に耐えうるグラフィックを生成できるようになっ

たことは、その技術的恩恵の裏側で、出力結果が既存の著作物に酷似するリスク（出力リスク）、学習データとして無断利用されるリスク、そして企業が生成物を自社の IP として保護・独占できるかという根源的な課題を鋭く浮き彫りにしている。2026 年現在、各国の司法・行政機関は、この急速な技術的現実に対して法的枠組みを適応させようと躍起になっている。また、2026 年には Cox Communications v. Sony Music（ISP の二次的著作権侵害責任に関する最高裁判決）や、Hikma Pharmaceuticals v. Amarin（スキニーラベルによる特許侵害誘発に関する最高裁判決）など、知財の根幹を揺るがす重大な訴訟が相次いでおり、知財管理の重要性は過去最高に達している<sup>30</sup>。

#### 4.1. 日米欧における「著作者性」と「依拠性」の司法判断

生成 AI に関連する著作権の議論は、主に「AI が生成したコンテンツに著作権（著作者性）は認められるか」という出力側の問題と、「著作物を AI の学習データとして無断利用することは適法か（フェアユースか）」という入力側の問題に集約される。

**米国の動向と著作者性の壁：**米国における著作者性の判断は、極めて厳格な方向で確定している。2026 年 3 月、米国最高裁判所は、Stephen Thaler 氏（自身の開発した AI システム「DABUS」を発明者および著作者として認めるよう求めていた）による AI 単独の発明・著作物に関する上告を棄却した<sup>10</sup>。これにより、「人間による創造的寄与（Human creative contribution）」が実質的に存在しない純粋な AI 生成物はパブリックドメインに帰属し、著作権保護の対象とならないとする法的原則が完全に確立された<sup>10</sup>。

米国著作権局（U.S. Copyright Office）のガイドラインもこれに準じており、プロンプトに数単語を入力して得られた結果に著作権は認められない<sup>31</sup>。著作権保護が認められるのは、人間が「予測可能かつ制御された設計の改良」のために AI を利用した場合、すなわち、手描きのスケッチを入力し、その特定の表現特徴を維持するよう AI に詳細に指示し、出力後にさらに独自のアート表現を付加したような場合に限定されている<sup>32</sup>。また、企業にとって新たなリスクとなっているのが「過大請求（Over-claiming）」である。作品の 99%が AI 生成であるにもかかわらず、企業が完全な著作権を主張して登録を行った場合、登録の無効化や虚偽申告によるペナルティを受けるリスクが警戒されている<sup>10</sup>。

**日本の動向と「依拠性」による刑事罰リスク：**日本では、文化庁が 2024 年に示した「AI と著作権に関する考え方」が実務の基盤として機能している。日本の著作権法第 30 条の 4 の規定に基づき、AI の学習（情報解析）は「非享受目的」であれば原則として許容されており、開発に有利な環境が整備されている<sup>10</sup>。

しかし、生成（出力）段階における侵害リスクについては、法執行が厳格化している。2025 年 11 月、千葉県警は全国初の摘発事例として、AI を用いて既存の書籍の表紙に極めて酷似した画像を生成し、それを無断使用・販売した男性を著作権法違反の疑いで書類送検した<sup>10</sup>。この事件が実務に与えた衝撃は大きい。なぜなら、人間がプロンプトの微調整や手作業での修正を加えるなどの「創造的寄与」を行って作品を完成させた場合、その出力物は法的に保護される「著作物」とみなされる一方で、それが他者の既存作品に意図的に似せられたものである場

合、無断の「二次的著作物」の作成となり、民事上の損害賠償だけでなく刑事罰の対象になり得るという明確な判例が示されたからである<sup>10</sup>。ChatGPT Images 2.0 のように「指定された意匠やスタイルを正確に模倣する」能力が高いモデルを使用する場合、ユーザーの入力意図（既存のキャラクターや作品を出力させる明確な意図があったか＝依拠性の有無）が、侵害成立の決定的な要件となる。

**欧州（EU）の動向と透明性要件：**2024年8月に正式に発効した欧州のAI法（EU AI Act）の下、生成AIを提供する汎用AI（General-Purpose AI）プロバイダーは、厳格な透明性要件を課されている。その中核となるのが、モデルの学習データに使用した著作物の詳細なリストを公開し、著作権者が自らの作品の使用状況を確認できる仕組みを提供することである<sup>10</sup>。これにより、権利者は自社の知的財産がOpenAIなどのモデルに無断で利用されているかを追跡・監視しやすくなっている。欧州市場で活動する企業は、自社が採用するAIプラットフォームがこれらの法的な透明性・コンプライアンス要件を満たしているかを事前に厳格に審査する必要がある<sup>10</sup>。

法的論点 / 地域	米国 (US)	日本 (Japan)	欧州 (EU)
AI 生成物の著作権適格性	否定（Thaler 最高裁判決により、人間の創造的寄与が必須と確定） <sup>10</sup>	否定（ただし一定の人間の創造的寄与があれば著作物と認められ得る） <sup>10</sup>	否定（人間の知的創作物のみ保護。AI法により透明性を重視） <sup>10</sup>
学習（入力）フェーズの適法性	フェアユースの解釈は司法に依存（ホワイトハウスは許容の見解を示すも、下級審で厳しい判例が連続） <sup>33</sup>	原則適法（著作権法第30条の4に基づく非享受目的に該当する場合） <sup>10</sup>	AI法による厳格な透明性要件（学習データの開示義務とオプトアウト尊重） <sup>10</sup>
生成（出力）フェーズの侵害リスク	実質的類似性とアクセスにより判断。ディープフェイク等には連邦レベルの新法規制を推奨 <sup>34</sup>	既存著作物を出力する意図（依拠性）がある場合、二次的著作物の侵害として刑事罰のリスクあり（千葉県警事案） <sup>10</sup>	著作権侵害の一般原則に基づく。ハイリスク AI としての厳格な管理とラベリング <sup>10</sup>

## 4.2. ホワイトハウス AI 政策枠組み（2026年3月）とフェアユースの行方

米国の AI 政策および知的財産政策を読み解く上で、2026 年 3 月 20 日にトランプ政権下のホワイトハウスから発表された「人工知能のための国家政策枠組み（National Policy Framework for Artificial Intelligence）」の立法提言は極めて重要である<sup>33</sup>。この枠組みは、「子供の保護」、「地域社会の保護」、「知的財産権の尊重」、「検閲の防止」、「イノベーションの促進」、「労働力開発」、そして「州による AI 規制の連邦法による先占（Preemption）」という 7 つの主要な政策分野に対する立法指針を示している<sup>33</sup>。

この枠組みは全体として「許可なきイノベーション（Permissionless innovation）」と「最小限の負担（Minimally burdensome）」という産業界寄りのビジョンに貫かれている<sup>34</sup>。知的財産とフェアユースに関する第 3 章（Section III）において、ホワイトハウスは「著作権保護された素材を用いて AI モデルを学習させることは、現行法における著作権侵害には当たらない（フェアユースである）」という行政としての公式見解を明確に示した<sup>33</sup>。

しかしながら、この枠組みのしたたかな点は、議会に対してこの「学習はフェアユースである」という見解を直ちに法制化することは求めておらず、逆に、最終的な判断は「司法（裁判所）の手に委ねる」方針をとり、議会が司法の判断に影響を与えるような行動を控えるよう勧告している点である<sup>33</sup>。その一方で、議会に対しては、必須のライセンス要件を法律で強制するのではなく、権利者が AI プロバイダーと集団で交渉し対価を得るための、反トラスト法に抵触しない「自主的なライセンス・メカニズム（Voluntary licensing mechanisms）や集合的権利システム」の構築を検討するよう推奨している<sup>33</sup>。これは、万が一裁判所で AI 企業側に不利な判決が出た場合でも、産業界のダメージを和らげるための法的なクッション（自主的な金銭的解決の枠組み）をあらかじめ用意しておくという戦略的な布石であると評価されている<sup>34</sup>。また、AI 企業に対する学習データの透明性や開示義務については一切言及されておらず、これも開発側に配慮した姿勢の表れである<sup>34</sup>。

### 4.3. 司法の加速と先鋭化する著作権訴訟

ホワイトハウスが立法による解決を見送り、司法に判断を委ねたことで、企業や AI 開発者は法廷闘争の最前線に立たされることとなった。現実には、米国の裁判所は議会よりもはるかに迅速に動いており、AI 業界にとって厳しい判決や和解が連続している<sup>34</sup>。

その起点となったのは、2023 年の最高裁判決「Andy Warhol Foundation v. Goldsmith」である。この判決により、二次的利用がフェアユースとして認められるための「変容的利用（Transformative use）」の解釈が極めて狭く制限されることとなった<sup>34</sup>。

この判例を追い風として、AI の学習データ利用に対する司法の風当たりは強まっている。2025 年の *Thomson Reuters v. ROSS Intelligence* 事件では、法務 AI 企業の ROSS が、自社の直接的な競合製品を訓練するために Thomson Reuters の著作権保護された法的要約データ（ヘッドノート）をコピーした行為について、連邦裁判所は「フェアユースの抗弁」を明確に退けた<sup>34</sup>。さらに衝撃を与えたのが、2025 年の *Bartz v. Anthropic* 訴訟である。Alsup 判事は、Anthropic 社の AI モデル「Claude」の訓練に海賊版書籍の膨大なデータセットが使用されたことに対して責任を認め、合法的に入手された資料を用いた訓練が潜在的にフェアユースとみ

なされる可能性がある場合であっても、不正入手されたデータに基づく訓練の代償として 15 億ドルという巨額の和解金支払いが命じられる事態となった<sup>34</sup>。

さらに、2026 年現在も The New York Times 対 OpenAI の訴訟が進行中であり、新たな立法が行われる前に、AI による著作物のスクレイピングと学習を制限する決定的な判決が下される可能性が高まっている<sup>34</sup>。

#### 4.4. デジタル・レプリカとパブリシティ権の連邦規制

著作権と並んで問題となっているのが、著名人や個人の肖像、音声を無断で生成・利用するディープフェイクの問題である。前述のホワイトハウスの枠組みは、この問題に対処するため、パロディや風刺といった憲法上の表現の自由（修正第 1 条）に対する明確な例外を設けた上で、個人の声や容姿の「AI 生成デジタル・レプリカ」の無断配信や商業利用を防ぐための、厳格な「連邦基準（Federal standard）」の構築を議会に求めている<sup>33</sup>。

この連邦基準は、現在各州で独自に制定されつつあるパブリシティ権に関する法律（例えば、音楽業界を保護するために制定されたテネシー州の ELVIS 法など）を連邦法によって先占（Preempt）し、無効化または上書きすることを意図している<sup>34</sup>。これにより、AI 開発者は州ごとに異なる複雑な規制に悩まされることなく、全国統一の保護シールド（セーフハーバー）のもとで開発を進められるという産業界への配慮が含まれている<sup>34</sup>。

### 5. 企業知財・法務部門における次世代ガバナンスとコンプライアンス体制

前述の高度な技術的恩恵と、複雑に絡み合う法的リスクの狭間で、企業は生成 AI の利活用を安全かつ戦略的に推進するための、極めて堅牢なガバナンス体制を構築しなければならない。ChatGPT Images 2.0 の導入に伴い、企業知財部門や法務部門が直面し、解決すべき具体的なコンプライアンス課題は以下の 4 つの領域に分類される。

#### 5.1. 情報漏洩（データリーケージ）と営業秘密保護の徹底

従業員が悪意なく、日常業務の生産性向上のために、AI チャットボットに機密情報を入力してしまう「インプットリスク」は、企業にとって依然として最大の脅威の一つである<sup>10</sup>。実際のビジネス現場では、MSP（マネージドサービスプロバイダー）がサポートするクライアント企業において、法律事務所のパラリーガルが医療記録を墨塗りせずに要約のためにアップロードしたり、病院のケースマネージャーが未加工の電子カルテ（EMR）の PDF をそのまま送信したり、さらにはエンジニアがデバッグのために独自のソースコードを貼り付けたりする深刻なインシデントが多発している<sup>39</sup>。

無料版や標準版の ChatGPT に入力されたデータは、即座に企業のセキュリティ境界を越えて OpenAI のサーバーに転送され、将来の AI モデルの再学習（トレーニング）に利用されるポリシーとなっている<sup>39</sup>。この結果、企業の貴重な営業秘密や顧客の機密情報（PHI/PII など）が AI

の知識ベースの一部として記憶され、競合他社が類似のプロンプトを入力した際に、その機密情報が出力（漏洩）されてしまうという致命的なリスクが存在する<sup>38</sup>。

この深刻なリスクに対する最も確実な防波堤は、「エンタープライズ向け AI ツール」への移行と、システムレベルでのアクセス制御である<sup>10</sup>。OpenAI は、ChatGPT Enterprise、ChatGPT for Healthcare、ChatGPT Edu、および API 経由（gpt-image-2 を含む）での利用においては、「顧客データをモデルのトレーニングに使用しない（We do not train our models on your data by default）」という厳格なエンタープライズ・プライバシーポリシーを適用している<sup>41</sup>。また、入力データおよび出力された成果物の所有権は、法律が許す範囲で完全に顧客に帰属する<sup>41</sup>。データは保存時（AES-256）および転送時（TLS 1.2+）において業界標準で暗号化されており、内部の監査ログや保存期間のコントロールも組織の管理者が一元的に設定可能である<sup>41</sup>。

企業は、情報漏洩を防ぐため、従業員に対して無料版 AI の業務利用をネットワークレベルでブロックし、データ保護の法的合意（データ処理追加条項や HIPAA BAA など）が結ばれたセキュアなエンタープライズ環境下でのみ、ChatGPT Images 2.0 の利用を許可する体制を構築しなければならない<sup>40</sup>。

## 5.2. C2PA メタデータと電子透かしによる来歴証明（Provenance）の確保

画像生成モデルのリアリティが極まり、出力された画像が現実の風景や写真と区別不可能なレベルに達した 2026 年において、「その画像が人間によって撮影された本物か、それとも AI によって生成されたものか」を客観的に証明する手段（Provenance）の確保は、メディア企業のみならず、証拠資料を取り扱う法務・知財部門にとっても死活問題となっている<sup>43</sup>。

OpenAI は、この課題に対して多層的な技術的アプローチを採用している。ChatGPT Images 2.0 および動画生成モデルの Sora 2 等の最新システムで生成されたすべての出力物には、業界標準である「C2PA（Coalition for Content Provenance and Authenticity）」規格に基づくメタデータが、生成の瞬間に自動的に埋め込まれる<sup>43</sup>。

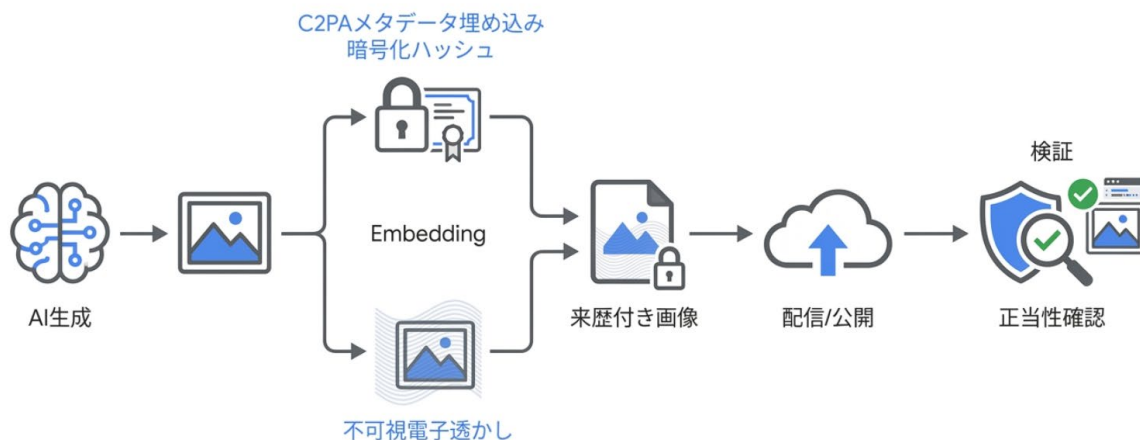
C2PA は、2021 年に Adobe、Microsoft、Intel、BBC などが主導して設立したイニシアチブであり、現在では Google、Meta、OpenAI、ソニー、ニコンなどが参画している<sup>43</sup>。この規格は、X.509 デジタル証明書と強力な暗号化ハッシュを使用して、コンテンツが「誰（どの AI モデル）によって作成されたか」「どのツールが使用されたか」「どのような編集が加えられたか」といった履歴を、改ざん不可能なマニフェストとして記録する技術である<sup>43</sup>。事後に偽造を検出する対症療法的なディープフェイク検出ツールとは異なり、C2PA はコンテンツ作成の起点においてデジタルな来歴を確立する予防的なアプローチをとっている<sup>43</sup>。

さらに、OpenAI は C2PA メタデータという「目に見える（確認可能な）署名」に加えて、堅牢な「不可視の電子透かし（Invisible Watermarking）」を画像自体のピクセルデータに統合している（Google の SynthID スタイルに類似したアプローチ）<sup>45</sup>。この電子透かしは、画像の

圧縮、切り抜き、あるいは色調補正などの加工を行っても容易には破壊されない特性を持つ<sup>46</sup>。これにより、悪意のあるユーザーが意図的に C2PA メタデータを削除して画像を拡散させた場合でも、OpenAI が内部に持つ逆画像検索・音声検索ツールを使用すれば、その画像が自社のシステムで生成されたものであるかを高い精度で追跡し、証明することが可能となっている<sup>45</sup>。

企業知財部や広報部門は、自社のマーケティング素材や公式発表資料に AI 生成画像を使用する場合、この C2PA メタデータを保持したまま Web サイト等で配信するワークフローを確立する必要がある。これにより、コンテンツの透明性を確保し、プラットフォームや欧州等の規制当局に対する開示要件を満たすことで、将来的なディープフェイクや著作権問題に巻き込まれるパブリックリレーション上のリスクを大幅に軽減できる<sup>44</sup>。

## C2PA規格に基づくAI生成画像のデジタル来歴と改ざん防止機能



生成時点でメタデータと不可視の電子透かしを二重に埋め込むことで、流通過程でメタデータが欠落しても、AI生成物としての出自を検証可能な状態を維持する。

### 5.3. 安全性とモデレーションの仕組み（Deployment Safety Hub）

ChatGPT Images 2.0 の高い写実性と推論能力は、悪意のある利用が行われた場合の被害を甚大なものにする危険性をはらんでいる。そのため、OpenAI はシステム全体にわたる多層的な安全対策（Safety Stack）を構築し、「Deployment Safety Hub」を通じてその詳細なシステム

カードを公開している<sup>46</sup>。

この安全システムは、主に3つのレイヤーで構成されている。第一層は「アップストリーム拒否 (Upstream Refusals)」である。ユーザーがプロンプトを入力した瞬間に、専用の安全分類器 (Safety text classifiers) がテキストを評価し、政治的、性的、または暴力的なコンテンツの生成を要求する違反プロンプトであると判断した場合は、画像生成プロセスを開始する前に要求を拒否する<sup>46</sup>。

第二層は「ダウンストリーム・ブロッキング (The Monitor)」である。これはマルチモーダルな安全推論モデルであり、入力されたテキストや参照画像だけでなく、生成された最終的な出力画像をも評価する。もし出力画像がポリシーに違反している (例：著名人の顔が生成されてしまった場合など) と判断されれば、その画像はブロックされ、ユーザーには表示されない<sup>46</sup>。また、「Thinking」モードにおいては、敵対的なプロンプト (制限を回避しようとするプロンプト) を受け取った際に、それを安全なプロンプトに内部的に変換して処理する「安全な補完 (Safe Completions)」機能が統合されている<sup>48</sup>。

第三層は、専門家による「生物学的リスク (Biological Risk) への緩和策」である。生物兵器の専門家によるレッドチーム・テストの結果、この高度なモデルが危険物質 (例：バイオトキシンの製造工程を示すインフォグラフィックなど) の生成を支援してしまう可能性があることが特定された<sup>48</sup>。これに対し、OpenAI は画像に特化した生物学的リスク安全ポリシーを開発し、オフラインでの対話レビューや人間のモデレーターによる監視を導入することで、継続的な悪用を検出し、アカウントを停止する措置を講じている<sup>46</sup>。

## 5.4. 実効性のある生成 AI 利用ガイドラインの構築と運用

以上の技術的進化と法的枠組みの変化、そしてセキュリティメカニズムの特性を総合し、企業は「生成 AI 利用ガイドライン」を机上の空論ではなく、実効性のある形で継続的にアップデートしなければならない。2026 年時点で最低限盛り込むべき事項は以下の通りである。

1. **入力制限の明確化と教育 (インプットリスクの管理)** : 機密情報、個人情報 (HIPAA 等の規制対象となる PHI を含む)、および他社の著作物 (ニュース要約、競合の提案書、公開前のソースコードなど) のプロンプト入力に対する厳格なルールを定める<sup>10</sup>。社内研修を通じて、何が「入力してはならないデータ」であるかを具体例を交えて教育する。
2. **生成物の利用基準 (アウトプットリスクの管理と Human-in-the-loop)** : 出力された画像が、既存の商標や著作物に類似していないかを、最終的に人間の専門家が必ず確認するプロセス (Human-in-the-loop) を業務フローに組み込む<sup>9</sup>。特に、「特定の作家の画風 (例：ジブリ風)」や「特定のブランドのロゴの模倣」を直接指示するようなプロンプトの使用は、依拠性を認定されるリスク (日本における刑事罰リスクなど) が極めて高いため、明確に禁止事項として明記する<sup>10</sup>。
3. **著作権主張のための証拠・記録の保持** : AI 生成物をベースとしたデザインに対して自社の著作権や意匠権を主張・登録する場合、米国最高裁の Thaler 判決等に対応するため、人間による「実質的な創造的寄与 (手作業での加筆修正の履歴や、複雑で独自性の高い

構成指示のプロンプトの履歴)」を客観的に証明できるプロセスログ（履歴データ）を長期間保管する体制を整える<sup>10</sup>。

4. エンタープライズツールの活用とゼロトラスト：従業員には ChatGPT Enterprise など、学習データへの不使用（オプトアウト）が契約上担保されたセキュアな環境へのアクセスのみを提供し、これをデフォルトとする<sup>10</sup>。シャドーIT（許可されていない無料 AI ツールの使用）に対する監視を強化する。

## 6. 結論と将来展望

2026 年 4 月にリリースされた「ChatGPT Images 2.0 (gpt-image-2)」は、その推論能力の統合と卓越した多言語テキスト描画能力、そして論理的な空間認識力により、画像生成 AI を「品質の不安定な実験的なツール」から「高度な知財・法務実務に不可欠なインフラ」へと押し上げた。知財実務の最前線においては、自然言語処理と視覚認識を組み合わせた商標クリアランス調査の精度を劇的に向上させ、言語の壁を越えた特許図面や意匠モックアップの作成プロセスを根本から効率化する、かつてない強力な武器として機能している。

一方で、その圧倒的な再現性と利便性は、学習データに関する著作権問題の紛糾、精緻な模倣によるアウトプットの侵害リスクの増大、そして AI 生成物の権利帰属（著作者性）という、知財法上の未解決のジレンマをさらに先鋭化させている。米ホワイトハウスの政策が示すように、規制の枠組みは産業界の保護に傾きつつも、現実の法的紛争は司法の場において極めて厳格かつ高額な代償を伴う形で進行している。このような不確実性の中、企業は各国の法整備の完了を待つことなく、インプットリスクの遮断と C2PA 等を用いた来歴証明を含めた自衛のためのガバナンス体制を、自己の責任において構築しなければならない。

これからの知財プロフェSSIONALに求められるのは、AI の出力を盲信して判断を完全に委ねることではない。AI の圧倒的な画像処理能力と論理的推論力を用いて膨大なデータからのノイズを排除し、初期プロセスの効率を最大化した上で、人間にしか成し得ない「複雑な法的文脈の解釈」「ビジネス戦略への統合」そして「最終的な倫理・コンプライアンスの担保」に注力する、真のハイブリッド・ワークフローを主導することである。ChatGPT Images 2.0 という新たなテクノロジーは、人間の知財専門家の役割を奪うのではなく、その価値を再定義し、より高度な戦略的思考へと導くための決定的な触媒として機能し続けるだろう。

なお、2026 年 2 月にリリースされた Google の最新画像生成モデル「Nano Banana 2（正式名称：Gemini 3.1 Flash Image）」と「ChatGPT Images 2.0」の比較について解説する。知財実務やビジネス利用における主な違いは以下の通り。

### 1. 得意領域の違い（高速・一発生成 vs 緻密な調整）

Nano Banana 2 は「スピード」と「見栄えの良い一枚絵」の生成に特化しており、インフォグラフィックやポスターなどを高速かつ高品質に出力することに優れている。一方、ChatGPT Images 2.0 は「推論能力」を重視しており、長文のプロンプトによる細かい構図の指定や、特

許図面・UI モックアップなど、論理的な正確性や「100 から 101 への細かい調整」が求められるタスクでの指示追従性に大きく長けている。

## 2. キャラクターとオブジェクトの一貫性

両モデルとも、ブランド展開などに不可欠な「一貫性の保持」に対応している。Nano Banana 2 は、ワークフロー全体で最大 5 人のキャラクターと 14 個のオブジェクトの一貫性を維持する能力を持っている。対して ChatGPT Images 2.0 は、1 つのプロンプトから最大 8 枚の連続した画像を生成し、一連の画像間で「視覚的な DNA」を保つアプローチをとっている。

## 3. リアルタイム情報とテキスト処理

Nano Banana 2 は Google 検索による「グラウンディング機能」を備えており、現実の事象を正確に反映した描画や、フォントスタイルを維持したまま画像内テキストを別言語に翻訳する機能に強みがある。一方の ChatGPT Images 2.0 も「Thinking (思考) モード」によってウェブ検索を統合しており、特に日本語や韓国語といった非ラテン言語の精密なテキスト描画や、複雑な図解レイアウトの再現において非常に高い評価を得ている。

総括すると、知財実務においてマーケティング素材や標準的なクリアランス調査用の比較画像を高速に量産する場合は「Nano Banana 2」が適しており、特許明細書用の複雑な概念図の作成や、意匠出願に向けたプロンプトベースでの微細なデザイン調整が必要な場合は「ChatGPT Images 2.0」がより強力なツールとして機能する。

## 引用文献

1. OpenAI says its new image tool can make complex charts and diagrams, 4 月 23, 2026 にアクセス、<https://www.latimes.com/business/story/2026-04-22/openai-says-its-new-image-tool-can-make-complex-charts-diagrams>
2. With the launch of ChatGPT Images 2.0, OpenAI now "thinks" before ..., 4 月 23, 2026 にアクセス、<https://thenewstack.io/chatgpt-images-20-openai/>
3. OpenAI Launches ChatGPT Images 2.0 With Reasoning-driven Visuals, 4 月 23, 2026 にアクセス、<https://dataconomy.com/2026/04/22/openai-launches-chatgpt-images-2-0-with-reasoning-driven-visuals/>
4. ChatGPT Images 2.0 brings reasoning to AI visuals, can now create full comics, 4 月 23, 2026 にアクセス、<https://indianexpress.com/article/technology/artificial-intelligence/chatgpt-images-2-0-brings-reasoning-to-ai-visuals-can-now-create-full-comics-10649407/>
5. 'Not just generating images. It's thinking' — ChatGPT Images 2.0 ..., 4 月 23, 2026 にアクセス、<https://www.techradar.com/ai-platforms-assistants/chatgpt/not-just-generating-images-its-thinking-chatgpt-images-2-0-could-fundamentally-change-how-you-make-ai-images>
6. OpenAI's ChatGPT Images 2.0 is here and it does multilingual text, full

- infographics, slides, maps, even manga — seemingly flawlessly | VentureBeat, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://venturebeat.com/technology/openai-chatgpt-images-2-0-is-here-and-it-does-multilingual-text-full-infographics-slides-maps-even-manga-seemingly-flawlessly>
7. I got an early look at ChatGPT Images 2.0, and it's impressive - with one exception | ZDNET, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.zdnet.com/article/chatgpt-images-2-hands-on-testing/>
  8. ChatGPT latest update: Finally gets text and object placement right in images, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.hindustantimes.com/technology/chatgpt-latest-update-finally-gets-text-and-object-placement-right-in-images-101776861348731.html>
  9. AI Logo Search: Image Recognition for Trademarks - LeanLaw - Legal Billing Made Easy, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.leanlaw.co/blog/ai-for-trademark-clearance-how-image-recognition-is-revolutionizing-logo-search-for-ip-law-firms/>
  10. 【2026 年最新】生成 AI 活用における著作権侵害リスクと社内ガイドライン・チェック体制構築の完全実務解説 | PatentRevenue, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://patent-revenue.iprich.jp/%E4%B8%80%E8%88%AC%E5%90%91%E3%81%91/4381/>
  11. GPT-image-2 vs GPT-image-1.5: A Comprehensive Analysis of 8 Major Upgrades: What Has OpenAI Improved in Its Next-Generation Image Model?, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://help.apiyi.com/en/gpt-image-2-vs-gpt-image-1-5-upgrade-8-features-en.html>
  12. ChatGPT Images 2.0: Features, Use Cases, and Impact - Digital Applied, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.digitalapplied.com/blog/chatgpt-images-2-0-features-use-cases-impact>
  13. ChatGPT Images 2.0 is bonkers, available now and people are fawning over it, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.indiatoday.in/technology/news/story/chatgpt-images-20-is-bonkers-available-now-and-people-are-fawning-over-it-2899890-2026-04-22>
  14. Image 2.0 is now online on ChatGPT and it's incredible! Just a few days ago even 3x3 grids would often struggle, now we can 10x the complexity, and it's near perfect! - Reddit, 4 月 23, 2026 にアクセス、 [https://www.reddit.com/r/ChatGPT/comments/lsraucf/image\\_20\\_is\\_now\\_online\\_on\\_chatgpt\\_and\\_its/](https://www.reddit.com/r/ChatGPT/comments/lsraucf/image_20_is_now_online_on_chatgpt_and_its/)
  15. OpenAI unveils ChatGPT Images 2 image-gen model capable of magazine design, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://9to5mac.com/2026/04/21/openai-unveiling-chatgpt-images-2-image-generation-model-watch-live-demo-here/>
  16. ChatGPT — Release Notes - OpenAI Help Center, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://help.openai.com/en/articles/6825453-chatgpt-release-notes>
  17. ChatGPT's new image model turned my article into handwriting, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.pcworld.com/article/3120607/chatgpts-new-image->

- [model-turned-my-article-into-handwriting.html](#)
18. OpenAI launches ChatGPT Images 2.0 with improved text rendering: Availability, price and more, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/openai-launches-chatgpt-images-2-0-with-improved-text-rendering-availability-price-and-more/articleshow/130431396.cms>
  19. New ChatGPT image model finally fixes AI text problem, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://news.az/news/new-chatgpt-image-model-finally-fixes-ai-text-problem>
  20. OpenAI rolls out ChatGPT Images 2.0 with realistic visuals, improved text rendering, and more, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://m.economictimes.com/tech/artificial-intelligence/openai-rolls-out-chatgpt-images-2-0-with-realistic-visuals-improved-text-rendering-and-more/articleshow/130436522.cms>
  21. ChatGPT just launched Images 2.0, and it finally fixes warped text | Tom's Guide, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://www.tomsguide.com/ai/chatgpt-launched-images-2-0-and-its-the-first-one-designers-might-actually-use>
  22. ChatGPT Images 2.0: Full Developer Breakdown (2026) - Build Fast with AI, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://www.buildfastwithai.com/blogs/chatgpt-images-2-0-gpt-image-2-2026>
  23. Images and vision | OpenAI API, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://developers.openai.com/api/docs/guides/images-vision>
  24. How to compare 2 image similarity using OpenAI API, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://community.openai.com/t/how-to-compare-2-image-similarity-using-openai-api/700891>
  25. AI Model Catalog | Microsoft Foundry Models, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://ai.azure.com/catalog/models>
  26. How AIs Improving Trademark Similarity Analysis - PatentPC, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://patentpc.com/blog/how-ai-is-improving-trademark-similarity-analysis>
  27. OpenAI launches ChatGPT Images 2.0, it can generate AI photos as good as real, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://www.indiatoday.in/technology/news/story/openai-launches-chatgpt-images-2-0-it-can-generate-ai-photos-as-good-as-real-2899788-2026-04-22>
  28. Unveiling GPT-image-1: Rising to new heights with image generation in Azure AI Foundry, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://azure.microsoft.com/en-us/blog/unveiling-gpt-image-1-rising-to-new-heights-with-image-generation-in-azure-ai-foundry/>
  29. JPO - STATUS REPORT 2026 - 特許庁, 4 月 23, 2026 にアクセス、  
<https://www.jpo.go.jp/resources/report/statusreport/2026/document/index/all.pdf>
  30. 2026 Intellectual Property Developments: Key IP Issues to Watch | Fitch Even, 4

- 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.fitcheven.com/2026/02/04/2026-intellectual-property-developments/>
31. Copyright and Artificial Intelligence, Part 2 Copyrightability Report, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.copyright.gov/ai/Copyright-and-Artificial-Intelligence-Part-2-Copyrightability-Report.pdf>
  32. Artificial Intelligence Assisted Intellectual Property (Inventorship and ..., 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.brookskushman.com/insights/artificial-intelligence-assisted-intellectual-property-inventorship-and-authorship/>
  33. AI Legal Watch: April | Thought Leadership | April 2026 - Baker Botts, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.bakerbotts.com/thought-leadership/publications/2026/april/ai-legal-watch---april>
  34. The White House AI Framework for Fair Use and Why the Courts May Get There First, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.thefirewall-blog.com/2026/04/the-white-house-ai-framework-for-fair-use-and-why-the-courts-may-get-there-first/>
  35. White House Releases a National Policy Framework for Artificial Intelligence | Insights, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.hklaw.com/en/insights/publications/2026/03/white-house-releases-a-national-policy-framework-for-artificial>
  36. National Policy Framework for Artificial Intelligence - The White House, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.whitehouse.gov/wp-content/uploads/2026/03/03.20.26-National-Policy-Framework-for-Artificial-Intelligence-Legislative-Recommendations.pdf>
  37. White House AI Framework Stakes Out National Policy Position – Developers and Deployers Now Watch and Wait, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://newmedialaw.proskauer.com/2026/04/03/white-house-ai-framework-stakes-out-national-policy-position-developers-and-deployers-now-watch-and-wait/>
  38. ChatGPT Data Security: Preventing Proprietary Data Leaks | Intuition Labs, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://intuitionlabs.ai/articles/prevent-chatgpt-proprietary-data-leaks>
  39. ChatGPT Data Leakage: How Employees Accidentally Expose Proprietary Data - centrexIT, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://centrexit.com/blog/employee-chatgpt-data-leakage-proprietary-code/>
  40. Are clients actually leaking customer data into ChatGPT or is it mostly theoretical - Reddit, 4 月 23, 2026 にアクセス、 [https://www.reddit.com/r/msp/comments/lqn4oms/are\\_clients\\_actually\\_leaking\\_customer\\_data\\_into/](https://www.reddit.com/r/msp/comments/lqn4oms/are_clients_actually_leaking_customer_data_into/)
  41. Enterprise privacy at OpenAI, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://openai.com/enterprise-privacy/>
  42. Security and privacy at OpenAI, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://openai.com/security-and-privacy/>

43. C2PA Standard in 2026: How It Works, Limitations & What's Missing- TrueScreen, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://truescreen.io/articles/c2pa-standard-history-limitations/>
44. AI Content Detection and Watermarking in 2026: What Actually Works for Publishers, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://www.aimagicx.com/blog/ai-content-detection-watermarking-publishers-2026>
45. Launching Sora responsibly - OpenAI, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://openai.com/index/launching-sora-responsibly/>
46. ChatGPT Images 2.0 System Card - OpenAI Deployment Safety Hub, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://deploymentsafety.openai.com/chatgpt-images-2-0/>
47. OpenAI: GPT-5.4 Image 2 – Provider Status and Pricing | OpenRouter, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://openrouter.ai/openai/gpt-5.4-image-2/providers>
48. ChatGPT Images 2.0 System Card - OpenAI Deployment Safety Hub, 4 月 23, 2026 にアクセス、 <https://deploymentsafety.openai.com/chatgpt-images-2-0/>
49. Japanese Government Calls on Sora 2 Maker OpenAI to Refrain From Copyright Infringement, Says Characters From Games, Manga, Anime Are 'Irreplaceable Treasures' That Japan Boasts to the World - Reddit, 4 月 23, 2026 にアクセス、 [https://www.reddit.com/r/Games/comments/lo7cj87/japanese\\_government\\_calls\\_on\\_sora\\_2\\_maker\\_openai/](https://www.reddit.com/r/Games/comments/lo7cj87/japanese_government_calls_on_sora_2_maker_openai/)